

# 新九郎通信



3月1日発行

発行 小田原市栄町2-13-3 (株) 伊勢治書店3F ギャラリー新九郎 木下泰徳

[kinoshita@iseji.net](mailto:kinoshita@iseji.net)

各地の春の便りがにぎやかな季節となりました。和やかな春の香りは心までウキウキさせてくれるから不思議です。

3月と言えば卒業。別れは辛いものですが、新たな出会いが新しい世界を広げてくれる希望のときでもあります。家にいることが多くなるとだんだん出会いの機会も減ってきますが、思い切って外に出るといい出会いは沢山あるものです。

ギャラリーにもすてきな出会いがあります。作家や作品との出会い、情報との出会い、映画や文化イベントとの出会い・・・。

陽気もよくなってきました。新たな出会いを求めて、3月は是非新九郎に外にお出かけしてみませんか。



## 新九郎 3月の展覧会のご案内



会期	展覧会名	見どころ
3月3日(水)～8日(月)	第14回西さがみ文芸展覧会 特別展「播磨晃一の足跡」	今年14回目を迎える西相模の文芸展。会員著書の展示及び販売もある。 会員の作品は 俳句・川柳・短歌・詩・エッセイ・創作・書画・写真
3月10日(木)～15日(月)	小田原写真研究会展	会員10名による、自然、街、造形等自由な創作の写真展。小田原コーナーでは「曾我の梅」を特集します。
3月17日(水)～22日(日)	第10回鈴木隆作陶展	青瓷・白瓷・練り込み、端正なフォルムは美しく、気品を漂わせます。根府川 の蜜柑の灰釉を使っています。今回は、記念すべき10回展。
3月24日(水)～29日(月)	第6回スケッチングワーク展	青空の下でウォーキングとスケッチを楽しむことと、仲間づくりが目的の会。 会員130人、水彩画130点が展示される見ごたえある展覧会。
3月31日(水)～4月5日(月)	第3回水墨画女流展	女性3人のグループ展「私達は水墨画を縁に三十年もの付合いで、共に学び、 旅行での作品も少なくない。」

### 近隣・友の会会員の展覧会情報

第14回柏水会展	3月25日(木)～29日(月)	ツノダ画廊
第2回修美会展	3月17日(水)～22日(月)	お堀端画廊
阿部尊美展	2月20日(土)～3月21日(日)	すどう美術館月火休み
創造人まえたゆうき展-宇宙-	3月13日(土)～28日(日)	すどう美術館月火休み
木になる写真展	3月12日～24日	ゾウガ-夢工房MJC
小川待子陶展	3月27日(土)～4月5日(月)	うつわ菜の花
小林伸枝水彩画展	3月1日(月)～31日(火休)	はげ八鮎
手仕事二人展	3月24日(水)～29日(月)	アオキ画廊
文化芸術展2010	3月31日(水)～4月5日(月)	ピソソソ4Fギャラリー

### 新九郎デッサン会のご案内

開催日 平成22年4月2日(金)  
時間 午後6時15分～8時45分  
場所 ギャラリー新九郎  
会費 1,000円

今回のモデルは写真の方です  
当日は黒と紫の粋な訪問着です。

申込先 ギャラリー新九郎  
木下 携帯 090-9324-4084  
※イーゼル持参、  
画材(鉛筆、木炭、水彩、その他)  
但し油絵不可



### ようこそ平塚美術館

平塚美術館学芸員 勝山 滋

一口で「線」といっても、完璧な一本の線、琳派にみるような膨らみのある豊かな線やゴッホばりのタッチなどさまざまです。原精一は力強く幾重にも重ねて絵画的なニュアンスを生み、全体の抑揚を表しています。突き抜けんばかりの筆致は、井上ひさしが、リストカットの末に死んだ女性の手首の傷跡になぞらえて評しています。なんと抜き差しならない線でしょうか。椅子から乗り出し、あるいはたちあがろうとしている女性の姿が、生命感のある一つ一つの線で、鼓動する心臓を秘めた力感をともなって表現されています。原精一展は4月11日まで開催しています。



# アトリエ訪問

## 第4回 「アトリエ 燈」 作家 鈴木 隆さん 根府川在住



JR根府川駅を少し上ると左手に紺色のこじんまりした工房が建っている。店の脇には「燈」と書かれた小さな看板が。明るい入り口を入ると店内には心地よいジャズのBGMが流れていた。美しい輝きを放つ青磁、色の異なる土を重ね指先で文様を

引き出した練りこみ、青いアクセントが愛らしい白い器などなどひとつひとつが主張しながらも調和のとれた素敵な店内である。奥のドアを開け出迎えてくださった鈴木さんは、長い髪を結えひげを蓄え、ギターを持ってもびったりなアーティストだった。鈴木さんは、2、3日後に控えた個展の搬入に向けて準備にお忙しい様子だったが、工房を案内して下さった。10時から6時まで此処で作品づくりをしているのだという。棚には明日窯焼きするという端正な素焼きの作品が並んでいた。

この工房は元みかん小屋を鈴木さんが全て改造し、手作りで建てられたのだと聞き驚いた。中学校の技術家庭の本をみながら作ってしまうという大胆な行動力をにわかには信じられなかったが、鈴木さんが非常に頭の良い手先の器用な方であることは間違いなかった。天井、床、壁、棚、どれも自作の作品に最も合う色や材質を用いてよく調和している。展示台は家にあった桐ダンスを利用したという工房には、手間暇をかけた作家の魂が宿っている気がした。と同時に、鈴木さんの内に持つ大きなエネルギーと探究心、何よりも根気よく最後までやり遂げるという陶芸家としての覚悟と資質を垣間見た気がした。

鈴木さんは今年作家生活10年目という節目の年を迎えた。年4回の個展に4、5回のグループ展をこなし、合間を縫って、カルチャーセンターでの講師や生活のためのアルバイトもこなすという多忙を極める生活をしながら制作されている。鈴木さんがかつて優秀な社員であったのは有名な話である。結婚し、二人の子供の親となって決断したという陶芸家の道。険しく厳しい作家の道に駆り立てたものはいったいなんだったのかということ、私はどうしても知りたかった。

鈴木さんはゆっくり笑いながら陶芸の魅力をこう語ってくれた。陶芸には学生のころから関心があったのだという。「岡部峰雄」の青磁を観た時、始めて青磁の美しさに惹かれたのがきっかけになっているのかもしれないと言われた。陶芸には子どもの頃やってはいけない3つの遊びの要素がすべて含まれているのだという。泥んこ遊び、火遊び、理科の実験だ。10年の時間の中で土の形成にはほとんど失



敗をすることはなくなったというが、焼く仕事は今でも一番難しいのだという。窯の温度の調整は作品の出来を左右するものであり、20時間徹夜で焼くときも、温度をみながら空気の量を調整して出来上がるものらしい。序々に窯の温度を上げ、酸素の具合を調整し、土に含まれる鉄分や釉薬に含まれる鉄分ミネラルなどが熱によって溶け出し、あの独特な色を作りだされているのだ。窯から出てくる作品が自分のイメージ通りに出てくるということがいかに至難の業であるのかということも、今回初めて知ったことだった。自分の意のままにならないものをどうしたらいいのかと試行錯誤する、化学的なデータを丹念に残し、偶然であってはならない作品を作ることが作陶の醍醐味なのだ



と私には聞かされた。泥んこ火遊びの楽しさとは土や窯との格闘であり、美しい色は自然の成分と熱のつくり出す美であることを知り、鈴木さんはこの奥深い道に足を踏み入れてしまったということなのだろうと想像した。鈴木さんの今のテーマは形の工夫だと伺った。かつて惹かれたのは古い信楽や伊賀焼のようなごつごつしたものだったが、今、土の癖がわかり始めてきてからは、シンプルなものに惹かれるという。4年目の個展から出品し始めた青磁。単純ゆえに難しい青磁の魅力を語るとき珍しく雄弁になられた。青磁は、他の物に比べ大変な手間のかかる技法であるらしい。みかんの灰から作った釉薬は5回塗りをするため、手間も薬も5倍使用するのだという。又、その分素焼きの工程で土台を薄く作る必要があり、丈夫で軽いものを目指しているのだというが失敗も数知れないらしい。火入れにも神経を使うようだ。5層に掛けられた釉薬は、徐々に熱を加える中で溶け始め、窯の中を酸欠状態にする中からあの美しい色とひびを生み出しているのだという。見ただけではわからなかったが、青磁の表面を爪で擦ってみると、何かひっかかるものがある。ひびは表面に線としてはいついて、ここに使用した人の色が付き新しい文様が作られていく、そんな青磁を日常気軽に使ってほしいのだと結ばれた。

帰り際 店の片隅に並ぶギターに気付いた。友の会会員の奥様敦子さんとは音楽がご縁で結ばれたと聞いている。「これがないとやっていけません。」と、ギターは今でも彼を癒す最良の友でいるらしい。そんな鈴木さんの10年目の作陶展が、今年も3月16日～22日まで新九郎で開催される。気負うことなく作家活動の10年目を展示されることだろう。作家の思いを私たちが受け止めることで、さらに作品は進化していけるのだと多くの作家さんから学ばせて頂いた。作家を育てるのは、実は私たち鑑賞者にも大いに力があることを、私たちはもっと大事にしていきたい。

(友の会 木下和子)

## 2月のこと

- ◆ ZAKKA-暮らしにアート展-は大盛況でした。まず三つ折りのカタログがいい。掘り出し物や素敵なものがあるのだらうと、期待感を掻き立てられました。額縁は初日ではほぼ完売、江川文子さんのぬいぐるみも大人気！追加を入れるほどでした。各ブース共お客様が多く、楽しい会話とお買い物で満足されたようでした。また昨年「銀座商店会初笑い」に出演された「だるま食堂」さんが来場され会場は演芸場のように盛り上がりました。お店もお客様も大喜びの企画でした。
- ◆ 第12回さくら会作品展は脳血管障害の方たちが、リハビリで絵・ちぎり絵・写真・書道・紙ねんどの造形などを制作し発表しています。自分の好きな歌謡曲をテーマに描いた水彩画は「別れの一本杉」「奥飛騨慕情」等々物語があり、写生の絵とは違う趣があり楽しいものでした。不思議なのは皆さん言語が不自由なのですが、カラオケはものすごく上手でハンディを感じさせないのだそうです。お元気で続けて頂きたいです。
- ◆ 南足柄市の岡本小学校で出前美術館が開かれました。すどう美術館様のコレクションをオープンスペースに展示して、児童に鑑賞してもらおうものです。1～3年と4～6年にわけ鑑賞の授業をしました。子供たちの感性は素直で作品からいろんなことを感じ取っていました。新九郎は搬入・搬出のお手伝いをしました。教室が美術館に変身し、楽しく豊かな空間になったのを見て、どの学校にも図書室があるようにアートがあったら、子供の感性を育てるのにどれほど良いことかと思いました。☺

